



2022年10月12日

大学記者クラブ加盟各社
御中
在阪民放京都支局各社

無重力下でのアート作品制作に世界で初めて成功
論文が MITPress の著名なアート&テクノロジー分野の
Leonard ジャーナルに採択
～NFT アートとしての事業化も計画～

京都大学防災研究所アートイノベーション産学共同研究部門(代表:土佐尚子特定教授)は、凸版印刷株式会社との共同研究で、土佐特定教授のアート「サウンドオブ生け花」をパラボリックフライトによる無重力下で制作する試みにチャレンジし、世界で初めての無重力アート作品制作に成功しました。本成果は無重力を活用した研究として学術面での価値も高く、MIT Press 発行のアート&テクノロジーの分野で世界的に著名な論文誌 Leonard に採択されました。この成果に基づき、凸版(株)は NFT で事業化することを予定しております。

つきましては、下記の通り記者会見を開催しますので、奮ってご参集ください。
本記者会見は事前申し込みをお願いしております。※申し込み期限：10月17日(月) 16時まで

●参加申し込みフォーム：

<https://forms.gle/AnT7pzVmxQqpZZ8F6>

QRコードは右記：

(報道解禁については後日お知らせいたします。)



記

日時：2022年10月18日(火曜) 16時～16時30分
場所：京都大学本部構内坂記念館 (対面とオンラインのハイブリッド形式で開催)

出席者：京都大学大学防災研究所アートイノベーション産学共同研究部門 特定教授 土佐 尚子
京都大学大学防災研究所アートイノベーション産学共同研究部門 特任教授 中津 良平
京大オリジナル 部長 川村健太
凸版印刷株式会社情報コミュニケーション事業本部未来イノベーションセンター
先端表現技術開発本部 本部長 鈴木高志、部長 山田晃弘

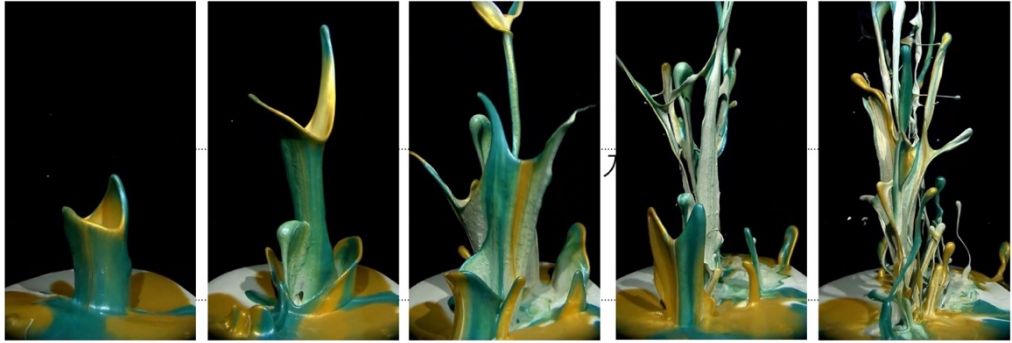
問い合わせ先

京都大学防災研究所・特定教授 土佐尚子

Tel.: 075-753-9081, e-mail: tosa.naoko.5c@kyoto-u.ac.jp

概要

防災研究所
アートイノベーション
産学共同研究
部門では、主
宰する土佐特定
教授が、人々が
災害や不確定な



未来に向けて柔軟・適切に対応するために、アートによって人の「生きる力を増大する」という目標を掲げ、そのめざすところに沿ってこれに賛同する凸版印刷（株）との間で第2期の共同研究を2022年5月に開始しました。

その目的に沿った研究の一環として、アートの新しい形として無重力下でのアート制作にチャレンジし、アート作品を作り上げることに成功しました。人は羊水の中で無重力状態を体験したのちこの世に生を受けます。現在宇宙を目指す事業が米国はじめ多くの国で行われています。宇宙時代は無重力時代でもあり、人は宇宙時代において再び無重力へと回帰していくと解釈することもできます。このような時代に向けた新しいアートの形を研究するべく、土佐教授のアートの代表作である「サウンドオブ生け花」を無重力下で制作するプロジェクトを実施し、無重力アートを作品化しました。

「サウンドオブ生け花」は、鮮やかな色彩の絵の具などの粘性液体に音の振動を与えて、各種の色が融合しつつ飛び上がる様子を2000フレーム/秒の高速カメラで撮影したビデオアートです。無重力の実現にはパラボリックフライトを用いて、小型化したサウンドオブ生け花生成装置を機内に持ち込み、パラボリックフライトで実現される数十秒の無重力の間に、アート制作を行うことを繰り返し、得られたビデオ映像を編集することによって、新しいアート「Zero Gravity Sound of Ikebana」を作り上げました。サウンドオブ生け花を生成する音としては、人類が来たるべき未来において無重力下で生きる生命の象徴として、赤ちゃんの産声を用いました。出来上がったアート作品では、飛び上がる液体が重力の制約を受けないため落下せず伸びやかに広がり、これまでのサウンドオブ生け花とは異なった新たな美しい美しさを生み出しています。

アートは時代を先取りする役目を持っているため、来たるべき未来に向けた無重力下でのアート制作には多くのアーティストが興味を持っており、パラボリックフライトや宇宙ステーション滞在を通して複数のアーティストがアート制作を試みているが、いずれも初期段階の試みの域を脱していません。土佐教授に率いられたアートイノベーション産学共同講座のメンバーは、事前に地上において十分な練習を重ねた上で本番に臨みましたが、数十回にわたるパラボリックフライトではほぼ失敗なくアート生成を行うことができました。出来上がった Zero Gravity Sound of Ikebana は、無重力下で制作された世界最初のアート作品であり、土佐教授はそれに成功した世界初のアーティストということになります。これは無重力を活用した研究の成果として学術的価値が高く、MIT Press が出版しアート&テクノロジーの分野で世界的に知られている論文誌 Leonard に採択が決定しました。

Zero Gravity Sound of Ikebana はアート作品としての価値も高く、共同研究を行っている凸版印刷が京大オリジナルと共に事業化を計画しています。時代を先取りした新しいアートにふさわしい新しい事業化の方法として、現在話題になっている NFT(Non Fundable Token)を用いることとします。

今回、NFT 販売の価値を高めるため、イオンモール株式会社の協力によって、購入されたアート作品をイオンモールの大型サイネージで期間限定で上映するという試みを予定しています。産学連携による NFT によるアートのビジネス化における新しい方式の提案として期待されます。